

## もう教科書にその言葉はありません

### テレビの放送で

現在、NHKで放送中の大河ドラマ「青天を衝け」をご存じですか。新しく一万円札の肖像画になる渋沢栄一の幕末から明治にかけての生き方を描く物語です。その中で、ナビゲーター役の徳川家康（北大路欣也さん）のこういう場面がありました。

「こんばんは、徳川家康です。「土農工商」もう教科書にその言葉はありません。」



### それだけではありません！教科書はどう変わった？

テレビを見ていた、お父さんと教員をしている子どもとの会話です。

父「本当か。土農工商がない？今、どう教えてる？」

子「これが今の教科書。農民は百姓という言葉に変わったよ。江戸時代の身分は住む場所によって決められていて、城下町の武家屋敷に住んでいる人々は『武士身分』、そのまわりの町に住んでいる人は『町人身分』、

父「差別された身分の人

たちも、今は社会を支え、たくましく生きてきたと書かれているのか。差別された身分で『えた』『ひん』という言葉もあつたな。」

子「そうだよ。とてもひどいだろうその言葉。

その言葉が、人を人と思わせない差別語なんだよ。」

父「その言葉を聞いて、今でもつらい思いをする人がいるんだよな。昔習ったことが、正しいとは限らないということか。」

子「この時代には、差別されてきた人たちが不当な差別に

対して、抵抗した学習もするよ。」

父「そうか、いつの時代にも、人間らしく生きるために闘ってきた様々な人々がいたから、今があるんだな。

勉強はし続けないといけないんだな。」

二人は、それから現代につながる人権獲得の歴史について話をしていきました。



村に住んでいる人は『百姓身分』、その他のところに住んでいる人は、差別される身分とされていたんだ。職業も、農業、漁業、林業の他にも、医者、鍛冶屋、染物屋など様々だったんだよ。

そして、武士身分の人々を支えるために、支配される百姓身分や町人身分の人々、支配され差別される被差別身分の人々がそれぞれの役割を果たすことで成り立っていたんだ。」

父「身分は住むところで決まるのか。職業も様々とは知らなかった。」

【教科書には、次のように書かれています。】

百姓や町人とは区別され、差別された人々もいました。これらの人々は、住む場所や服装、他の身分の人々との交際などを制限されました。しかし、厳しい差別を受けながらも、荒地を耕して年貢を納めたり、すぐれた技術を使って人々の生活に必要な用具をつくったり、役人のもつて治安をなったりして、社会を支えました。また、古くから伝わる芸能をさかんにして、後の文化に影響をあたえました。



### 今も残る、許せないその言葉

2018（平成30）年2月、私たちの暮らしている筑紫野市で、ふるさとを否定し、命をも脅かす部落差別落書きが発見されました。子どもたちが仲間をつくる大切な場所に、「差別語」を使ったり「死ね」と書いたりした、決して許すことのできない差別落書きが、いくつもいくつも書かれていました。

怒りに震え、悔し涙を流す何人も人の姿がありました。人がつくりだした差別だから、人の力でなくすことができるかと信じ、考え、行動してきたたくさんの人々の努力を踏みにじる行為。国連が、国が、県が、市が、法律や条例をつくり、この理不尽な差別をなくそうとはたらきかけている今、起こった差別落書きです。

しかし、それに立ち向かい、正しい学びで人と人との豊かな関係を築こうとしている多くの人たちがいるのも事実です。

この差別落書きを前にして、ある女性がつぶやきました。「こんな卑劣なことしかできない人の生き方が悲しい。差別は、する側をも不幸にしてしまう。」と。

※えた・ひんという言葉は、江戸時代の身分制社会の中で、差別されていた人々に対し使われた差別語です。これらの言葉は、1871年、明治政府によって廃止する通達が出され現在に至っています。今回は啓発のため、あえて使用しています。